

氏名 (本籍)	足立 はるゑ (岐阜県)		
学位の種類	博士 (医学)		
学位授与番号	乙第 1257 号		
学位授与日付	平成 12 年 11 月 15 日		
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当		
学位論文題目	某公立病院看護婦の精神健康度及びストレス対処行動についての検討 —Stress & Stress-Coping Questionnaireを用いて—		
審査委員	(主査) 教授 清水 弘之		
	(副査) 教授 小出 浩之	助教授 井奈波 良一	

## 論文内容の要旨

今日、患者のQuality of Lifeが注目され、患者支援の主眼がCureからCareへ移行する中で、医療現場の高度化、複雑化に伴い、看護婦には業務内容の変化と負担の増大によるストレスが増強しているものと思われる。過度のストレスは労働意欲の低下、燃えつき現象、離職等を引きおこし、思いやりの欠如により看護ケアも機械的になるといわれている。健康障害を有する人の看護をする者が自分自身の精神健康度を高めることは役割遂行上重要なことであり、職場管理上の課題でもある。本研究は、日本版GHQ (General Health Questionnaire) 精神健康調査票および、八尋らが作成した、ストレスを多面的に評価する「ストレスおよびストレス対処に関する質問紙」(Stress & Stress-Coping Questionnaire, 以下SSCQとする)を用いて、職域における看護職者の精神健康度およびストレス対処行動について検討したものである。

### 対象と方法

対象者は、愛知県内の某公立病院に勤務する女性看護職225名(回収率96.6%)で、その内訳は、看護婦118名、准看護婦98名、助産婦9名であった。

全対象者にGHQ60項目および、SSCQ153項目の調査を行った。SSCQは、ストレッサーとしてLife event (人生上の大きな出来事)とDaily hassle (日々の煩わしい出来事)、ストレスをどのように感じているかというストレス評価に関してAnger (怒り)とNervousness (神経質)、ストレス対処行動としてCoping style (ストレッサーに対処する行動の構え)、Uplift (気分を高める出来事)、Hardiness (対処行動を支える背景となる性格上の強さ)およびSocial support (ストレス緩衝帯としての社会的な援助)、特定疾患の危険因子を示すType A (虚血性心疾患発症の心理社会的要因と言われる競争、攻撃性、時間切迫性)とType C (悪性黒色腫患者調査にて確認された、否定的感情を表出しない、権威に対する盲従といった行動パターン)の尺度からなる。さらに、職場要因、生活要因など20項目の質問を追加した。

調査は、1995年10月15日より10月30日までに自記式で行った。

### 結果と考察

1) 卒後1、2年の看護婦、婦長、手術室および外来勤務の看護婦のGHQ得点の平均値が高値を示し、精神健康が不健康に傾いている傾向が示された。生活要因、保健行動との関連では、既婚者と喫煙者の精神健康が不健康に傾いていた。

2) ストレスとストレス対処行動を測定するSSCQの10下位尺度それぞれの高得点者率を、GHQ得点16点以下の正常群と17点以上の異常群とで比較した。正常群では、Daily hassle, Nervousness, Anger, Type Cなどの尺度で、異常群ではLife event, Daily hassle, Anger, Nervousness, Type A, Cなどの尺度で高得点者率が高かった。SSCQでの高得点者は卒後5年未満の初心者と仕事の中心的存在となっている卒後10年以上の者に多かった。

このように従来から行われているGHQ調査のみではわからなかったストレス対処の弱点が明らかになった。

## 結 論

以上、経験年数1～2年の者、婦長、手術室および外来勤務の看護職者において、GHQにより、精神健康が不健康に傾いていることが明らかにされた。さらにGHQで正常群とされた者のうちにも、SSCQによりストレス評価およびストレス対処行動に問題がある者を認め、今後、援助を必要とすると考えられた。

## 論文審査の結果の要旨

申請者 足立はるゑは、既に汎用されている精神健康調査票、ならびに八尋らによって開発されたストレスおよびストレス対処に関する質問紙を用い、某病院に勤務する看護職員の精神健康度とストレス対処行動を数量的に調査した。その結果、経験年数の短い看護婦、婦長、および手術室・外来勤務の看護職者が精神的に不健康であることを明らかにした。加えて、ストレスへの対処が不十分な者が存在していることを示した。これは従来の方法では検出できなかったものであり、本研究の成果は看護職種の精神保健向上のために有用であると認める。

---

### [主論文公表誌]

某公立病院看護婦の精神健康度及びストレス対処行動についての検討

—Stress & Stress-Coping Questionnaire—を用いて

1999年 産業衛生学雑誌 41:79～87